

## “性差医学・医療”をご存知ですか？

～臨床で遭遇する男女差と検査の留意点・重要性～

◎横山 知子<sup>1)</sup>

シーメンズヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社学術部学術グループ グループマネージャー<sup>1)</sup>

これまでの医学は成人男性を標準として、病態とその推移、診断方法、治療方法などを確立してきました。

しかし近年では、同じ疾患に対する危険因子（リスクファクター）でも寄与度に男女差がある場合があること、同じ医薬品でも効果に男女差がある場合があることなどが明らかになりつつあります。原因として男女のホルモンバランスの違い（生物学的要因）や生活習慣の違い（社会文化的要因）などが挙げられています。が、いずれにしましてもそのような性差に配慮した医療（性差医療）が必要と考えられるようになりました。このように男女の様々な差異を念頭において行う医療を性差医療と呼んでいます。

日本では、1999年に第47回日本心臓病学会にて天野恵子医師が本邦で始めて”gender specific medicine”を紹介したことが発端となり、“性差医学・医療”という概念が普及する様になりました。

本セミナーでは、“性差医学・医療”の概念と臨床で実際にみられる男女差ならびに“性差医学・医療”における検査の留意点・重要性をご紹介します。